

日本女子大学の学寮における家具・什器一覧化と考察  
-梅花寮・紫峰寮・精華寮・新泉寮を対象として-

21919003 石井 優希  
指導教員 葉袋 奈美子 教授

木製家具 和家具 歴史的家具  
寮教育 家具保存 昭和初期

1. 研究の背景と目的

歴史的に貴重な家具や、西洋の家具に関する家具についての文献や既往研究はあるものの、流行や生活が西洋化していく段階にあった昭和初期～中期の生活家具に着目された研究は少ない。日本女子大学の休寮中の建物内に昭和初期～中期のものと思わしき大量の家具類が残されている。既に調査が行われた明桂寮以外の、梅花寮・紫峰寮・新泉寮・精華寮を対象に、家具の一覧化・資料化を行う。その例として、表1にまとめた。

一覧化・資料化にあたっては、調査対象寮での実地調査により現存する家具を確認した上で、元寮生に家具の使用状況についてのヒアリング、及び和家具のアンティーク店である「山本商店」にて昭和初期から中期の木製家具に関するヒアリング調査を行った。

実地調査では、主に木製家具の清掃と寸法の測定、家具の配置や特徴の記録、写真撮影によって行った。寸法は高さ・幅・奥行を測定。写真撮影は移動可能な範囲でパース・正面・背面・側面・上面・裏面に加え、適宜細部の撮影を行った。また、明桂寮調査のような3D スキャンは行われなかったため、2本の標尺を映り込ませることにより、家具のサイズ感をわかりやすくした。

元寮生へのヒアリング調査では、閉寮前の寮生活の様子や当時の家具の使われ方を知るため、元梅花寮生1人・元新泉寮生3人を対象に行った。「山本商店」へのヒアリング調査では、昭和初期～中期頃に製造された日本の生活家具の特徴について伺った。

2. 各寮の特徴と家具数

2-1. 梅花寮

1902年(明治35年)に設立され、1970年(昭和45年)には現在の寮舎を新築、2001年(平成13年)に閉寮。本学初の個

室寮であり、鉄筋コンクリート造5階建の洋風寮となっている。和室・食堂・厨房・シャワー室・談話室などの共有スペースと、96室からなる左右対称な個室棟となっている。

一覧化した家具の数量は表2に示した。家具以外にも歴史的価値の高そうな木製オルガンなども記録した。梅花寮の寮生の個室は全て作り付け家具となっており、調査は行わなかった。昭和初期～中期のものと思われる書棚や机等の木製家具は、各談話室に平均1~2個設置されており、その他は3F食堂、2F和室、1Fボイラー室などにも見られた。

表2: 梅花寮家具数

種類	個数	品名(製造元)
イス	46	ソファ1(ホウトク)
	17	回転椅子1(コクヨ)
	11	ソファ2(ホウトク)
	4	ソファ4(ホウトク),パイプ椅子5(ホウトク)
	3	パイプ椅子1(ウチダ),パイプ椅子3(ホウトク)
	2	パイプ椅子2(ホウトク)
テーブル	1	スツール1(秋田木工),スツール2,ソファ3(ホウトク),パイプ椅子4(コトブキ),パイプ椅子6(ホウトク)
	17	テーブル2(ホウトク)
	16	テーブル1(ホウトク)
	2	机1
棚	1	テーブルワゴン1(ヨシムラ),机2,机3,文台1
	4	ラック1
	2	飾り棚2,書棚9
鏡	1	書棚1,2,3,4,5,6,7,8,10,11,12,13,13,14,15,飾り棚1,地図ケース1
	7	鏡1
合計	1	鏡2
	135	41(種)

2-2. 紫峰寮・精華寮・新泉寮

1957年(昭和32年)に旧紫峰寮跡地に現在の寮舎である1階新泉寮、2階精華寮、3階紫峰寮の1棟3寮の新寮舎が建築

表1: 家具一覧の例

品名	書棚	食器棚	レコードケース	書類棚	書記机
場所	梅花寮4F西談話室	精華寮玄関~食堂廊下	精華寮談話室	新泉寮玄関~食堂廊下	新泉寮玄関前
寸法(mm)	H: 1745, W: 957, D: 480	H: 1720, W: 3392, D: 956	H: 833, W: 605, D: 397	H: 431, W: 306, D: 328	H: 968, W: 779, D: 563
写真					

された。そして、1994年(平成6年)に精華寮が閉寮し、1995年(平成7年)には紫峰寮と新泉寮が閉寮した。鉄筋コンクリート4階建の建物であり、洋風3~4人部屋の寮となっている。各寮は全て同じ間取りとなっており、それぞれ11室の相部屋と、食堂や談話室、寮務室(「主婦」と呼ばれる交代制の寮の当番が待機する部屋)、シャワー室、洗濯室などの共有スペースで構成されている。

相部屋に人数分同種類の木製の机や書棚が配置され、玄関には靴箱、玄関や食堂、寮務室には書棚や食器棚等が配置されている。談話室にはレコードケースなども見られた。

表 3: 紫峰寮・精華寮・新泉寮家具数

種類	個数	品名(製造元)
イス	4	ソファA
	2	パイプ椅子A(コトブキ)
	1	スツールA
テーブル	9	机B
	3	机A,C,テーブルB
	2	テーブルE(DECOLA),テーブルF
	1	テーブルA,C,D,机D,書記机A,脇机A,花台A,B
棚	60	書棚C
	2	靴箱B
	1	レコードケースA,B,C,D,靴箱A,C,棚A,B,書棚A,B,D,E,F,G,H,書類棚A,食器棚A
鏡	1	鏡A,B,C
合計	86	39(種)

### 3. 調査対象家具のまとめ

調査対象寮に残された家具と「山本商店」で取り扱う家具には類似する点が多く見られ、家具の製造された年代が近いものであると考えられることから、「山本商店」へのヒアリングを元に、図1に示すように使用されている木材や金具、構造の特徴等から各家具の製造された年代を推察すると、木製家具のほとんどが昭和初期~昭和30年代のものであることが判明した。



図 1: 「山本商店」取扱家具と本学寮家具の類似点

また、図2のように他寮で使用されていたものが持ち込まれたことが分かる書き込みのある家具も見られた。このことから、現在の寮舎となる以前から使用されているものや、他寮で使用されていたものを長きに渡って引き継ぎ、当時のまま大切に使用されていたことがわかる。

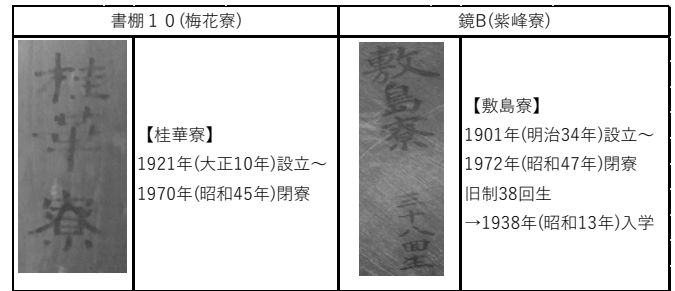


図 2: 他寮から持ち込まれたことを示す書き込み

非大量生産品である木製家具類には、職人の名入れや製造元を示すものではなく、製造元を特定することは不可能であった。取手などの金具で同様のものが使用されているケースはいくつか存在したが、同じ製作者であると断定することは難しい。大量生産品と思われる家具類は、企業ロゴなどが刻印されており、オフィスや学校向けの家具を取り扱うホウトク・コクヨ・コトブキ等の企業の製品であることが判明した。表 2,3 から分かるように、いずれの寮も職人の手で作られた1点物の家具と、家具製造メーカーによる同じ規格の大量生産品が混在していることがわかる。

また、元寮生へのヒアリング調査や浅野久美(1990)の研究、現在の寮の様子からは、個室や食堂、談話室などで寮生が生活の中で使用していた家具類は大量生産品が主であったことが伺える。非大量生産品である木製家具類は、梅花寮では和室や各階の東西談話室などで頻りに利用されていたことが伺える。それに対し、紫峰寮・精華寮・新泉寮では、現在の寮舎となってからはあまり使用されていなかったことが伺える。

### 7. まとめ

実地調査を通し、寮に現存する家具を一覧化し、ヒアリング調査や文献調査の結果、現在の寮舎以上に長い歴史を持つ家具である可能性があることが分かった。また、当時の寮生活の様子や昭和初期頃の生活家具の特徴を示し、高い学術的価値があると考えられる。九州大学の例を見ると、歴史的木製什器の学術的・実用的価値を明らかにすることで、保全管理や修繕を行い、利活用に向けた動きも見られる。今後は本学の寮地区に残された家具類の価値や新たな知見を見出すべく検証を続け、長い歴史の中で引き継がれてきた家具を大切に、保存・再利用の手法を模索していくべきである。

付記: 本調査にあたっては本学学術研究員関村啓太氏、藪下美雪氏の多大な協力をいただきました。お礼申し上げます。

#### 参考文献

- 1) 浅野久美「日本女子大学寮の現状と今後について」(卒業論文,1990)
- 2) 新井竜治・三島美佐子「九州大学総合研究博物館所蔵・歴史的木製什器コレクションの価値と課題」(九州大学総合研究博物館報告第15-16合併号,2018-03,pp.69-85)
- 3) 藤井美羽「日本女子大学の学寮における家具・什器一覧化と考察-明桂寮を対象として-」(卒業論文,2021)
- 4) 藤井美羽・関村啓太・藪下美雪・葉袋奈美子「日本女子大学の両地区に残されている家具について-明桂寮における家具調査報告-(1)」(家政学部住居学科 紀要 70※未出)
- 5) 日本女子大学学寮 100 年研究会『女子高等教育における学寮日本女子大学学寮の100年』(ドメス出版,2007)
- 6) 山本明弘『和家具をたのしむ』(洋泉社,2015)